

<センター通信 8月号>

～地域医療実習を終えて②～



中津川市地域総合医療センター 高橋春光

皆様にご協力頂きまして、去る5、7月に名古屋大学医学部6年生4名が当センターで地域医療実習を行いました。実習にご協力頂きました皆様はもちろんですが、患者様、利用者の皆様にここに改めて当センターよりお礼申し上げます。ありがとうございました。学生より皆様へのお礼と共にメッセージを預かっておりますので、ここにお知らせさせていただきます。

- ① 大学病院での自習ではできない多くの経験を積むことができました。「地域医療」「患者を中心とした全人的な医療」という漠然だったイメージが、それは医学の知識や技術による治療だけでなく、行政のサービス、患者本人、家族や周囲の人も関わった、その人全体を支えるものであると分かり、そこに温かみを感じました。この2週間で関わった多くの方に、「患者の話をしっかり聞いて診てくれる医者になってね」と励ましを頂きました。自分の進む道がどんな方向であれ、この約束を守る医者になれるよう、今後も勉学に励んでいきたいと思えます。
- ② 今回総合診療科の一環として実習の機会を頂きましたが、普段名古屋周辺における大学生生活、実習ではあまり経験してこなかった行政や介護、地域の診療所というバリエーションに富んでおり、良い体験だった。この実習を通じて地域での医療の概要の一端をかいまみることが出来た。また自身がこれから臨床に出るにあたっての課題をみつめなおすこともできたと思う。この場をかりてお世話になった方々へお礼申し上げます。
- ③ この度、総合診療科ポリクリ2の一環として中津川市民病院をはじめとする各施設にて実習をさせて頂く機会に恵まれました。「中津川市地域医療総合センター」をはじめ、「すずらん」、「川上診療所」、「シクラメン」、「飛翔の里」、「阿木診療所」にお邪魔しました。「すずらん」は川上地区に位置するテイサービスセンターです。利用者の方々の自立を促すために、日常生活の介助だけでなく様々なレクリエーションが行われていました。たった1日ではありましたが、七夕の短冊作りや防災訓練、漢字のクイズなどを一緒にさせて頂くなかで、利用者の方がどんな生活をされているのか、身をもって学ぶことができました。いかにして利用者の方々の自立を促すのか、その大切さを垣間見たような気がします。また川上には「龍神の滝」で有名な夕森公園があり秋にはもみじが咲き誇ります。「龍神の滝」は岐阜県の名水にも指定されている滝で神秘的な雰囲気醸し出していました。緑豊かな自然の一角を占める川上診療所はヒノキをふんだんに使用した内装で、来院した方々の心が自然と落ち着く造りになっていました。診療所では外来見学を中心に、時折患者さんの呼び入れや診察をさせて頂きました。顔見知りの方が私のことを覚えていて下さり、地域医療の醍醐味ともいえるものを肌で感じました。また診療の合間にはレントゲン撮影の準備、薬剤の梱包、患者さんの送迎同行といった仕事もさせて頂きました。診療所でお会いする患者さんの姿はあくまでもその人が送る日常生活の一場面にすぎない-という高橋先生のお言葉が今でも印象に残っています。「シクラメン」

では中津川実習はじまって以来の大イベント-ミニレクチャー15分×4回-がありました。テーマは《熱中症・脱水症》というとても身近なものでしたが、利用者の皆さんのニーズに応じてアレンジする必要があり中々大変でした。はじめはどうなるのだろうかと心配ではありましたが、会場の皆さまの反応も良く、いつのまにか熱く語っていたようです。「飛翔の里」では障がい者の方々と直に接する機会がありレクリエーションや送迎に同行させて頂きました。ここで学んだことを言葉で表現することはとても難しいです。あえて言葉にするのであれば、医療と福祉には別々の世界があり、それぞれが担っている役割も大きく異なるということ、その当たり前の事実気がついたことです。また、とてもデリケートな問題ですが…果たして彼ら・彼女らは“幸せ”なのだろうか？という素朴な問いも心に浮かび上がってきました。もちろん生まれてきた「命」は皆尊いものであり、障がいの有無でそのひとの幸・不幸が決まってしまう訳でも、ましてや差別されるわけでもありません。ただ、ふと先ほどの疑問が脳裏をよぎってしまう時があったのは紛れもない事実であり、今でも心の奥深くでは激しい葛藤があります。阿木診療所は事務所の中にあり、いわゆる“診療所”の体裁が満足に整っていた訳ではありませんでした。それでも医療を求めて診療所にやってくる患者さんがいる、その当たり前の事実を真摯に受け止めて、一人ひとりの患者さんに向き合う高橋先生の姿から多くのことを学ばせて頂きました。自分の中でも正しい答えがみつかった訳ではありません（そもそも正しい答えなどないのかもしれませんが）、今回の実習を通して、ほんやりと見えてきたものがあるのも事実です。山村に暮らすお年寄りの方々にとっての医療とは何か？地域医療、家庭医療、それとも…そう自分に問いかけるきっかけを作ることができた、それが中津川で得ることが出来た最も大きな財産かもしれません。これから実習や見学にくる学生さんには中津川だからできる実習を体験してもらいたいと心から思います。大学病院では学べない医療-その定義は人によって様々だと思いますが-を垣間見の中で自分の心の中に見えてくるものがあり、それは間違いなくこれから医師になっていく者として忘れてはいけないうものだと思いますので。高橋春光先生、岡崎研太郎先生、濱家千絵先生、和田あつ子さんをはじめ各施設のスタッフの方々にはとてもお世話になりました。この場をおかりして御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。

- ④ 今回2週間という短い期間ではありましたが、中津川市の様々な施設（デイサービス、福祉施設、診療所）に伺って本当に多くの方々と出会い、お話をすることができました。最初は皆様に受け入れて頂けるか不安に思っておりましたが、皆様が本当にウェルカムで、とても実り多い2週間でした。今後医者になっていく中で、都会で働いていくという進路しか考えていっていましたが、地域の皆様と共に生きる町医者という選択肢も良いと思うようになりました。またご縁があって、中津川で診療させて頂ける機会があれば、その時はどうぞよろしく願います。

現在、医学教育の場は、病院より診療所、地域へ移っています。それは診療所、地域でしか学べないものがあるからです。医学教育を担うのは医師だけではありません。学生や研修医などの学習者に関わる皆様が、学習者を育てます。今後も当センターで地域医療実習、研修を行う予定です。改めて皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。